

今後の展開に向けて

- チームオレンジは、数多くの進めていくべき「ポイント」があります。
 - ・ 活動意欲のある認知症サポーターの確保と育成
 - ・ 認知症サポーターのスキルアップ
 - ・ 認知症サポーターの性格や個性等に応じた役割・活躍の場の確保
 - ・ 認知症の方（以下、「本人」という。）のニーズの把握
 - ・ 他機関との連携、役割分担
 - ・ 把握した本人のニーズと認知症サポーターをつなぐ仕組み（本人と認知症サポーターのマッチング）などがあり、それを進めていくタイミングについても考えていかなければなりません。

- この冊子では、モデル市町のチームオレンジにつながる取り組みを掲載していますが、モデル市町においても取り組みを進めていく中で苦慮したり、戸惑うこともたくさんあったと思います。その中で工夫や試行錯誤をくり返しながらか、現在に至っているのではないのでしょうか。

- 以下にモデル市町のポイントを整理しましたので、今後の事業展開の参考にさせていただければ幸いです。
 - ＜豊能町＞

キャラバン・メイトが認知症カフェの活動の中心となって取り組んでいく機会を作ることで、現在はキャラバン・メイトが主体的に認知症カフェを運営するようになっていきます。また、認知症カフェを広く知ってもらうために出張カフェの実施も進めており、啓発活動にも力を入れています。
 - ＜池田市＞

中学校の福祉体験（中学生が認知症の方と接する機会）という既存の取り組みを活用し、中学校における認知症サポーター養成講座を開催。また、市での取り組みを組織的に行える様、キャラバンメイト連絡会を立ち上げ、認知症サポーター養成講座のみならず、地域の啓発活動につながる認知症見守り声掛け訓練を実施しています。
 - ＜高槻市＞

認知症サポーター養成講座で、「ボランティア活動に関する関心の有無」についてアンケートをとり、ニーズ調査を実施しています。また、認知症サポーターステップアップ講座においては、要件（認知症の人とのコミュニケーションについて演習や実習がある・講座内容の立案に、認知症指導者が関与している・6時間以上の講座とする）を一定決めることで、ステップアップ研修の開催をしやすくしています。

<門真市>

「ゆめ伴（とも）プロジェクト」として、本人・家族・地域住民・企業・行政・社会福祉協議会などがつながり、さまざまなプロジェクトを実施しています。また、「本人や家族の日頃の何気ない会話」や「本人の得意なことや興味のあること」を大切に、活動につなげています。

<八尾市>

八尾市では、地域の集まり（ふれあい喫茶・高齢者サロンなど）において「認知症の人への接し方がわからない」という声がよくきかれましたが、サポーター養成講座の中に「認知症高齢者声かけ体験」を組み込むなど、認知症の基本的な知識や接し方を体験する機会をつくることで、地域の方へ認知症の理解を深めてきました。また、各地域の団体と相談して講座や勉強会を企画することで、他機関との連携についても構築してきました。

<河内長野市>

「認知症の人が住み慣れた地域で暮らし続けるためには、地域のボランティアによる支援が必要」と考え、平成27年度から認知症パートナー養成講座（現在の「ステップアップ研修」）を開催してきました。その中で、「グループホームでの傾聴活動」「認知症カフェ」「カレーパーティ」など、多くの取り組みを行っています。

また、その取り組みを担う認知症パートナーの活動支援にも力を入れており、活動を推進していくための定例会を実施したり、「認知症パートナーから活動報告を具体的に聞いて対応を一緒に考える」といったことを通し、認知症パートナーの対応力向上につなげています。

<阪南市>

認知症地域支援推進員が日頃の相談支援を通じて、各機関や認知症の当事者、当事者の家族のニーズを把握してきました。また、当事者を含む関係者同士で話し合いを実施し、「認知症にやさしい図書館」を作り上げていくことを大きなテーマとし、「知る、学ぶ、つながる」の3つのプロジェクトを立ち上げました。その中の「つながる」プロジェクトとして、認知症当事者や介護者の運営するマスターズカフェが誕生しました。また、マスターズカフェでは、何度もマスターと話し合いを行うなど、マスターの思いをカタチにするためのコーディネートを今も続けています。

- この事例集をお読みになっていただく際、『どのような「工夫」や「試行錯誤」があったのか』・『事業を企画する中で参考にできるところはないか』という視点を持って読んでいただければと思います。

そして、読まれた方がなんらかの「ヒント」をつかんでいただき、今後それぞれの市町村のチームオレンジの取り組みに活かしていただけることを願っています。